

鎌倉市教科用図書採択検討委員会（第3回） 会議録

日 時 令和元年（2019年）年7月22日（月） 9：30 開会  
17：00 閉会

場 所 大船学習センター 第3集会室

出席者 杉並委員 關根委員 小日山委員 磯部委員 三好委員  
鈴木委員 三上委員 大原委員 山本委員 近藤委員

事務局 石川教育指導課長 竹澤指導主事 上指導主事 佐藤指導主事  
池邊指導主事 山内指導主事 太田指導主事 坂本指導主事  
鈴木指導主事 山美指導主事 赤山指導主事

次 第

- 1 開会
- 2 種目ごとの説明、協議等
- 3 閉会

委員長 鎌倉市教科用図書採択検討委員会の第3回委員会を開催する。本日の会議録署名委員を三好委員と大原委員にお願いするがよいか。

委 員 （よい）

委員長 それでは、本日の流れについて事務局から説明をお願いします。

事務局 本日は最終回であり、第2回の引き続きということで、残り9種目の検討をよろしくをお願いします。その後、検討委員会報告書をまとめる作業となるが、その段階となったら説明させていただく。

委員長 今事務局から説明があったが、質問はあるか。

委 員 （なし）

委員長 まず、社会の担当の方をお願いします。

事務局 社会について説明する。

東京書籍

学習の流れが「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という構成になっている。また、「教科関連マーク」があり、他教科とのつながりがわかりやすく、教科横断的な学習を意識することができる。

本文中の重要な言葉は、欄外で「ことば」として取り上げ、詳しく説明されており、

基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために活用できるよう工夫されている。

「まなび方コーナー」では、地図や資料の読み取り方を具体的に記載するなど、自主学習の手だてが掲載されている。

「ひろげる」では、原子力事故からの復興や鎌倉時代のエピソードなど、発展的な内容が、記載されており、児童の興味・関心をひくように工夫されている。

写真やイラストが見やすい大きさに載せられており、例えば6年歴史の原爆ドーム、新宿の写真など、過去と現在の比較が見やすく配置されており、児童の気づきや発見を引き出せるような配置の工夫がされている。

## 教育出版

学習を「つかむ」「調べる」「まとめる」「つなげる」で構成されており、問題解決的な学習を、見通しをもって進められるように工夫されている。

また、單元ごとに「この時間の問い」が掲載されていて、学習課題が捉えやすく、主体的な学びができるよう配慮されている。

内容に関しては、3、4年生で特に、神奈川県の記事の記載が多く、地域学習において、児童が身近な事例を参考に学習できるようになっている。3年では、横浜鉄道地図、シウマイ、横浜の農業、新横浜比較、4年では、藤沢や小田原の寄木細工などが掲載されている。

「ひろげる」では、資源・エネルギーやリサイクル都市江戸など、持続可能な社会について児童が考えるきっかけとなる発展的な学習をしやすい資料が掲載されている。

写真やイラストが見やすい色や大きさに豊富に扱われており、資料を見分けやすいようにカタカナ記号がつけられている。また、折りこみの広いページがあり、比べ合ったり、資料を読み取りやすかったりする構成になっている。

領土問題については、「返還を求める交渉」や「韓国に対してはたらきかけ」等、他国に対し過度な先入観を持たせないよう、文章表現に配慮がなされている。

## 日本文教出版

本文中の重要な言葉が、欄外で「キーワード」や「ノートマーク」で取り上げられており、ていねいに説明がされている。

「学び方・調べ方コーナー」として「見る・調べる」「読み取る」「表現する」という進め方で学習が構成され、説明も充実しているため、自主的な学習がしやすくなっている。

内容に関しては、「見方・考え方コーナー」を設けてあり、「空間」「時間」「関係」の3観点で考えるアドバイスを掲載している。

「わたしたちの学びを生かそう」では、レアメタルや海洋深層水についてなど、発展的な内容が記載されている。また、「学習資料」として、学習に関連した資料が充実しており、資料についての説明も詳しく記載されている。

各学年の巻頭に発達段階に応じた学習の流れが写真やイラストで示されており、また、写真が見やすい大きさに豊富に扱われている。

委員長 協議を始める。質疑や意見はないか。

委員 東京書籍がよい。6年の最後に、中学校へ向けてのことが詳しく乗っている。小中9年間を見通した学習を考えるとよい。また、学年で学んだことが巻末でまとめて取り上げられている。

委員 東京書籍について。4年災害の写真をモノクロで載せている。他社はカラーなので、刺激が強すぎないような配慮がされているのではないか。

委員 東京書籍の6年で、鎌倉を取り扱っている資料があり、身近な地域の歴史を学べてよい。

委員 東京書籍の資料が扱いやすそう。過去と現代の比較がよい。資料がシンプルで着目してほしいところが分かりやすい。

委員 日本文教の6年歴史で、大仏の作り方が具体的にイラストで載っている。児童が興味を持ちやすく分かりやすい。

委員 日本文教の6年生のノートまとめ。升目のノートを使っているので分かりやすい。

委員 5年の情報を見てみると、日本文教は、情報社会の中での情報の扱い方など、細かく示され、現代の児童にとってはよい。

東京書籍の「まとめる」のコーナーが現代的。信長と秀吉にわかれてのパネルディスカッション形式だったり4コマ漫画形式だったり児童が興味を持てる形が多い。

また、4年を見てみると、学習の流れが示されているのが分かりやすく、「まとめ」で児童が書き込みしやすい。

委員 教育出版は、神奈川県の記事は多い。横浜、藤沢など身近な場所やテーマが取り上げられていて身近な材料で学習が進められやすい。

3年生のわくわく社会科ガイドは、調べ学習、地域学習のしかた、How toがまとめられていてよい。電話の掛け方、手紙の書き方など具体的である。

委員 6年歴史の視点が、教育出版は、一般市民からの視点となっている。日本文教は、内容は詳しいが、施政側の視点に感じる。東京書籍も、肝心なところは国民側の視点ではない。

委員 資料集等も使うので、表記についてはそんなに心配しなくてもいいのでは。児童もメディアから様々な情報を得ている。

委員 領土問題について比較すると、教育出版は、視点や文末表現などがフラットな視点で書かれていて、いいのではないか。

委員 5、6年で1冊か上下2冊かの違いがある。実際、両方持ってきて学習す

ることはあるのか。教育出版の6年が一番重い。

委員 6年の1冊はかなり重いので、持ち帰りを考えると2冊に分かれている方が軽いのは確かである。しかし、上下に分かれていると、失くしてしまう児童もいる。

委員 資料集などは教室に置いておくこともある。教科書も置いていってよいことになるのではないか。

委員長 他に意見はあるか。

委員 教育出版での神奈川県を扱っていることがよい。逆に神奈川県が扱われていない教科書になった場合には、鎌倉市の資料で学習するなど、先生方にも学習の進め方を周知する必要がある。

委員 真実や事実を知るためのきちんとした資料が記載されていることが必要ではないか。教育出版はしっかりした資料に感じる。また、神奈川県が扱われていることで児童は親しみを感じて学習に臨めるのではないか。

委員 やはり、6年生を比較すると、細かい記述への注意が必要ではないだろうか。

委員長 神奈川県の取り扱いが多いことや、庶民目線の記述になっていること。全体の資料の使いやすさを考えて、教育出版は◎、他は○でよろしいか。

委員 よい。

委員長 続いて、算数の担当の方をお願いします。

事務局 算数について説明する。

#### 東京書籍

5、6年では、問題解決の方法をふり返り、新たな課題を生み出し追求するサイクルをPPDACサイクルとして可視化している。

「学びのとびら マイノートをつくろう」では、問題解決の過程における大切な視点やノート作りについて、全学年の学習を題材とした実際の授業をとおして振り返ることができるようになっている。これにより、全学年と現在の学年の学び方をつなぎ、児童が主体的に学ぶことができるようになっている。

考えるヒントとなるような箇所等で使われる色の数が限定されている。カラーバリエーションに配慮し、全ての児童に見やすく分かりやすくなっている。

#### 大日本図書

「なるほど算数教室」では、算数の学びを深める本の紹介や、児童の興味を引く課

題等により、学習が楽しくなるように工夫されている。

どの学年も1年で1冊となっており、学習の見通しをもったり、既習学習を振り返ったりしやすくなっている。

全学年を通して、問題の文字の背景の色は、同じ色になっており、学年が上がっても、学習の始まりが分かりやすく工夫されている。

#### 学校図書

プログラミング的思考を育成するため、1年生では、プログラミングの「プ」、6年生では「グ」まで発展的に掲載されている。また、QRコードによって実際に操作することができるようになっている。

6年別冊には、「中学校へのかけ橋」が用意されていて、中学校へのスムーズな連携が図られている。

「考え方モンスター」を登場させ、算数の「見方・考え方」を明確にして、児童の思考の助けとなるようにするとともに、自然と「見方・考え方」が身につくように工夫されている。

#### 教育出版

単元のはじめに「どんな学習がはじまるのかな？」が用意されており、既習事項や生活経験の中から課題意識をもてるよう工夫されている。

各単元の終わりに「ふり返ろう」・「たしかめよう」というまとめの課題が2段階で用意されていて、習熟度に合わせ、しっかりと問題量を確保している。

1年生以外、教科書を開いた最初のページに算数の学習に関係のある実物の写真が掲載されていて、児童がこれから始まる算数の学習に興味をもてるようになっている。

#### 啓林館

「算数ラボ」では、活動を通してプログラミング的思考が育めるような課題を設定している。また、巻末の切り取り教具を使ったり、QRコードを読み取った先にあるデジタルコンテンツを用いたりすることでより活動的な学習を行うことができるようになっている。

学習の流れが、「めばえ」・「めあて」・「まとめ」となっている。これにより児童が目的意識を持って、主体的に学習を進められるようになっている。また、「自分の力で」のマークがある場所はより主体的に学習を進めていけるようにしている。

学習内容に関連付けられている練習問題が多く用意されていて、反復して問題に取り組むことによって内容の定着が図られている。

#### 日本文教出版

単元の最初のページには、給食や朝顔の栽培等の学校生活の一場面が描かれている。児童が興味を持ち、考えやすいように生活科を中心とした合科的・関連的な指導とともに、その絵を用いて、自分で算数の問題作りをすることができるよう言語活動の充実が図られている。

問題を考える際に働かせる「数学的な見方・考え方」を色分けしながら例示し、自力による解決を促し、数学的な思考力・表現力の育成を図っている。

特別支援教育への配慮がなされ、文字の大きさや書体・罫線や囲みの使い方、色使

いなど、レイアウトを工夫し判読しやすくなっている。

委員長 協議を始める。質疑や意見はないか。

委員 東京書籍の一年生は大きくて、ノートなしで完結できるのは是なのか非なのか。ノートがなくてこれでというのはどうか。

委員 一学期かけて文字の学習をするので、書き込みできるのはありがたい。他社も書き込む部分が多い。

委員 学図は、「中学校へのかけはし」に中学校の内容が書いてあるが、中学校の先生は本当にこれが必要と思っているか疑問。中学生になって初めて数学にふれさせたいこともあるだろう。

委員 3年生の教科書のグラフをどのように扱っているかを比べたが、学図は上下巻で表やグラフに触れていた。この視点では学図がよい。

委員 学図だが、「深めよう」というコーナーで算数を生活と結びつけるコーナーがあるのでよい。

委員 啓林館では、他の会社と変わった $180^\circ$ 以上の扇の分度器もあり、分かりやすい。

委員 2年生のノートのまとめ方を見ていたが、日文と東書がよいと思った。啓林館は10マスなので書き入れなくてつなげて書いてあって使いにくい。大日本もまあまあ良い。

委員 日文は、低学年の絵の中から算数に関連することを見つけるなど、低学年にも学びやすい。巻末に「学び方ガイド」があり、それぞれの学年で身に付けたいことが書いてある。これが身につくと理論的に考える力がついていく。考え方や説明する力がつくので良い。

委員 プログラミング的なことに啓林館と学図が触れている。今までの教科書でも出てこないし、話題に挙げることでプログラミングに入る間口になってきている。学図の単元の最後の「考えよう」は興味のある児童にはよい。導入の「はてなをみつけよう」というところもよい。2年生の分数のところ、ケーキの分け方などが乗っていて興味深い。

委員 学図はサイズが大きいので、使いやすい。

委員 5年の割合が自分の子どもがつかまずくので比べてみた。初めから「割合」という言葉を使っているが、学図だけが、子どもたちが議論して3ページ使って、4ページ目に初めて「割合」という言葉が出てくる。そのあたりは丁

寧である。

委員 啓林館は、調査員の資料にもあるが、「広がる算数」というのが面白そう。中学校にどのようにつながっているのかが、デザインや音楽、スポーツなどに絡めて、他分野と算数との広がりを書き、生活に息づいていることが実感できる。身近な例を挙げて、これも算数のひとつだと意識づけていてよい。

委員 教育出版の概数では、図鑑の象の写真が掲載され、その種類や歴史など概数で示すと分かりやすいように工夫されている。また、6年生の面積で、横浜市の縮図がでてきて横浜市のだいたいの面積を求めましょうという身近なものもある。

委員 東書は、独特なまとめが必ずある。それがよいのか悪いのか分からないが。見てすぐ分かるようになっている。

委員 今も学図だが、新しい教科書もよい。「はてなを見つけよう」「深めよう」など、どの学年を見ても楽しい。文章題についても見方が書いてあり、使いやすそうである。

委員 学図がリズムカルな感じがあり、自然な内容で課題が出てきている。発展的な内容も興味深いものがある。紙の幅が広いのもよい。

委員 練習問題をみたら、啓林館が見やすかった。東書の面白問題にチャレンジも目を引いた。

委員長 では、学図◎、日文○、東書○でよいか。

委員 よい。

委員長 続いて、理科の担当の方お願いします。

事務局 理科について説明する。

#### 東京書籍

問題解決型の授業の流れやポイントが、わかるようになっている。また、児童の疑問や気づきから問題をつかむ構成となっていて主体的に学習できる。

#### 大日本図書

ESD 持続可能な開発のための教育について触れている。プログラミング教育など現代的な諸課題に対応している。

#### 学校図書

見通しをもって主体的に進められるような構成になっている。また、安全や実験器具の使いかたについて、本文や巻末で詳しく説明されている。

#### 教育出版

キャラクターのナビゲーションによって学習の流れを示し、親しみやすくなっている。単元の始まりで既習の学習内容が示されている。ノートの記載例が掲載されている。

啓林館

問題解決の流れがわかるように、学習内容が示されている。実験の考察や結論が明確に分けて記載されている。

委員長 協議を始める。質疑や意見はないか。

委員 巻末に東京書籍、学校図書、啓林館、話し合い、発表の仕方やノートの書き方が巻末にまとめてあり、分かりやすい。啓林館では、算数の窓など他教科との関連も意識されている。

委員 QRコードを読んだが、教育出版は、公的なサイトにつながる。啓林館は、NHK for schoolのような子ども向けサイトにつながる。子どもが自発的に見るなら啓林館の方が使いやすい。

委員 実験がやりやすい方がいい。大日本だけが、唾液の実験で、ジッパー付きのポリエチレン袋を使っている。他社は試験管を使用している。新しいやり方を工夫している。また、単元の並びは、気象など年間を通じて観察行う単元を最初に並べてある方がよい。

委員 5年生のふりこの実験。まとめ方として学校図書は、「これをふりこという。」としっかりまとめられている。東京書籍もまとめ方が分かりやすい。

委員 4年生の水の体積と温度。実験をするにあたり、仮説の立て方や準備の仕方、結果のまとめ方など、学校図書は細かくまとめられていて分かりやすい。

事務局 東京書籍は、版が大きめで見やすい。大日本図書と東京書籍だけがSDGsに触れている。

委員 東京書籍は、苦手な子に分かりやすく、学習課題や結論がとても大きな字で書いてある。実験が好きだが、テストができない子がいる。巻末にたしかめようの問題があるので、問題になれることができる。実験とテストがリンクする。説明させる部分があるのも子どもの実態にあっている。

委員 東京書籍は、目次が裏表紙にある。

委員 教育出版は、巻末資料が充実している。裏表紙で、安全指導もできる。

委員 4年「電流」の比較。学校図書は、活動、気づき、課題設定としている。大日本図書は、「流れる向きがある」と指導、実験じゃあ、たしかめてみようとなっている。理科が好きな児童には、学校図書の方がおもしろいそう



である。

委員 啓林館6年の燃焼実験。写真が分かりやすい。見やすい。まとめの後に、「もっとしりたい」があっっておもしろい。

委員 実験のまとめ方まで丁寧なのは学校図書。

委員 小学校では、理屈はそんなに指導しなくてもよいのでは。東京書籍は、記述が少ないが、その程度で十分ではないか。

委員 理科では、「？」を育てることが大切。大日本図書と学校図書は、遊び、実験しながら検証。身近なものから気付かせる方法。東京書籍は、いきなり道具を与えてスタート。

委員 東京書籍では、確かにいきなり実験道具からスタートするが、子どもは遊びから「？」を見つけるのは向かないこともあるので、実験道具からスタートしてもいい。

委員長 では、◎を学校図書、東京書籍、○大日本図書でよいか。

委員 よい。

委員長 続いて、英語の担当の方お願いします。

事務局 英語について説明する。

#### 東京書籍

他教科と関連付けた題材が多く扱われており、学習の広がり期待される内容となっている。SDGsに関する環境や食糧事情を取り上げており、鎌倉市の取組と関連付けて学習することが出来る。巻末の絵カードやアルファベット練習シート、別冊のピクチャーディクショナリーがあり、付録が充実している。全体的に場面や状況を表す写真やイラストが多く掲載されており、会話の状況や様々な国の文化や自然をイメージしやすくなっている。

#### 開隆堂

ペアやグループ、個人の活動がバリエーション多くあり、季節や学校生活に合うように内容が設定され、自動に興味・関心を持って取組めるような工夫がされている。

巻頭にCAN-DO マップがあり、一年間を通してどのような活動に取り組み、どのような能力が身につけられるのかが児童にも分かりやすくなっている。

各章のはじめに書かれた「めあて」や、各章の最後に、巻頭のCAN-DO マップに対応した「ふりかえりをしよう」のコーナーがあり、児童が意識を持って学習に取り組み、自ら学習を振り返ることが出来るようになっている。

#### 学校図書

児童が興味を持って学習活動に取り組むことができる内容の様々な形式の活動が数多く掲載され、授業の時間に合わせて活動を選ぶことができるように工夫されている。

日本語で表記された問題文や説明が多くあり、児童自身が内容を自ら理解して活動できるようになっている。学習した内容を自然と覚えられるよう、各単元の学習内容に関連した文法やフレーズが使われている伝統的な英語の歌が掲載されている。書くことについて、児童の負担にならずに書くことに慣れることが出来るような内容となっている。

### 三省堂

英語に限らず、さまざまな国の言葉や、世界の様々な街の様子やイベントの写真などが掲載されている。各 Unit が Hop、Step、Jump の段階に分かれて構成され、目標の確認、見通し、基礎基本の習得、活用という流れで学習できるようになっている。使用している英字のフォントを独自に開発し、児童が書く活動をする際に参考に出来るように工夫されている。

### 教育出版

他教科で既に学習した物語や項目を英語で聞いたり、読んだりするコーナーがあり、内容を推測しながら英語を聞く活動が出来るようになっている。“Sound and Letters”のコーナーでは、英語と「カタカナ英語」の音声の違いを意識して行うリスニング活動や、音声から文字を書き取る活動があり、英語らしい音声感覚を身につけられるような工夫がされている。書く活動で使用するシートが巻末についており、授業で使った後に教室で作品として掲示できるようになっている。

### 光村図書

巻頭にある「4つの大切」や、各学年にある「言葉について考えよう」のコーナーでは、会話で大切なことについて書かれている。話す活動のページには、それぞれ「あいづち」の打ち方など、他者とのコミュニケーションを取る際に大切なことが噴出しで示されている。巻末の絵辞典では、学習した単語が項目ごとにまとめられている。付録にペンマンシップシートがついており、繰り返し使える素材になっている。

### 啓林館

Part で学ぶ表現のキーセンテンスを”Chants”のコーナーでとりあげ、文のなかで強く発音する単語に印がついており、Chants の音楽のリズムに合わせて英語らしい発話練習が出来るようになっている。Did you know? のコーナーでは、世界の祭りやスポーツ、職業などについて取り上げられ、世界の文化について触れることが出来る。Listen、Chants、Activity のコーナーのデザインと場所が同じになっており、活動内容が分かりやすくなっている。

委員長 協議を始める。質疑や意見はないか。

委員 教育出版は、掲示物が作れるのがよい。各単元の中で1枚は仕上げられるのではないか。

- 委員 開隆堂の最後には教科書で学んだことリストがある。自分が出来たことをチェックできるのだが、巻頭にあり、巻末にもある。自分の学習を確認できてよい。
- 委員 啓林館について。短時間で終わるところにマークがついている。モジュールで使用するときには良い。
- 委員 現在、鎌倉ではモジュールをする予定はないので、使わないかもしれない。
- 委員 学図について。巻末に歌詞が書かれており、学習と歌うことが結びつく教材がありよいのではないか。
- 委員 東京書籍について。Unit の間にある check your step のページは表現力を磨くにはとても良い内容になっている。
- 委員 東京書籍のピクチャーディクショナリーはとても良いと思う。学習が終わってもこれだけ取っておきたいと思えるし、教科書との対応ページが示されており、単語や表現も示されているのがよい。
- 委員 開隆堂では、英語について必然的にしゃべりたくなる手立てが豊富に用意されている。活動がやりたくなる、英語で伝えたくなるような教科書である。
- 事務局 シチュエーションを設定するような手立ては開隆堂のみである。
- 委員 開隆堂だが、単元名に日本語訳もつけているので、苦手な子でも学習の見通しなどが分かりやすいのではないか。
- 委員 東京書籍も、単元名タイトルで、何をするかが書かれている。ピクチャーディクショナリーは、とてもよい。単語量があるので子どもたちも満足するのではないか。
- 委員 単語の索引については、和英があるほうが良いのではないか。
- 委員 東京書籍のいろいろな国のことが QR コードから音声で聞けるなど、世界につながり、世界を知ることができるのは、学習の幅がありよい。
- 委員 自己紹介カードを作るための手立てが充実している。また、ところどころに文化を紹介するようなページがあり、日本と比べ文化に触れているのがよい。
- 委員 アルファベットで苦労する子がいると思うが、開隆堂はその点では分かりやすい。

委員 三省堂は、それぞれのレッスンの最初に学習の中身が日本語で書かれてあり、英語のキーセンテンスも書かれているので、学ぶことが分かりやすい。

委員 啓林館では、Looking Back、振り返り、Can Do リストがあり、どういうことができればよいか分かりやすく書かれている。

委員 光村では活動が細かく区切られており、少しずつ目先を変えてテンポよく授業を組み立てることができ、子供たちをひきつけやすいのではないかと。

委員長 他に意見はないか。  
それでは、今の検討をまとめると、東書◎、開隆堂○、学図○でよいか。

委員 よい。

委員長 続いて、生活の担当の方をお願いします。

事務局 生活について説明する。

#### 東京書籍

「いきものずかん」では、詳しい虫の飼い方などの活動に必要な資料が豊富である。

「あきのおもちゃをつくろう」など、実際の作り方ややり方などが細かく示されている。

「やくそく」や「てをあらおう うがいをしよう」で、低学年のうちに学習時に身につけたい習慣や技能が示されている。

付録の「ほんとうのおおきさポケット図鑑」は、教科書から切り離して、野外活動の資料として携帯できるように工夫されている。

#### 大日本図書

登場人物やキャラクターのセリフで、児童の気づきを高める学習へと導く。花やたねを比べさせたり、物事をたとえたりする活動が示されている。さらに活動時の注意やマナーの投げかけもあり、親しみやすい。

「がくしゅうのどうぐばこ」では、折り紙や昔遊びなどの遊び方やはがきの書き方など、基本的な知識が習得できるようになっている。

表紙を触って感触を楽しめるようになっていたり、モノクロの写真を提示し色を想像させるなど、児童の興味関心を引き出す装丁になっている。

#### 学校図書

写真やイラストが大きく、児童の想像力をかきたてる工夫がなされている。全体的に紙面上に詳しい解説や指示的な言葉を避け、児童の気づきがつぶやきのよう形で書かれている。児童自らが考えて課題を見つけ出し、解決していく力を身につけられるように工夫されている。

学習カードの例示である「ものしりのうと」は、大きく見やすい。児童が気づきをどう表現し、まとめたらよいか分かりやすくなっている。

「まなびかたずかん」は、「みる・あそぶ・はなす・かく・はっぴょうする・相談

する」などの項目に分けられ、どんな視点で活動を深めていけばいいかヒントやアドバースが書いてあり、児童の考える力や表現の質を高めることにつながっている。

ふりかえり活動には、様々な表現方法が例示され、劇、クイズ大会、ペープサート等多様である。学んだことを楽しみながら発信する活動内容が充実するよう工夫されている。

#### 教育出版

各単元で、「ひんと」のコーナーが設けられ、「きく・かく・見つける・比べる」など、対象を見る視点や次の活動を導く問いが繰り返して提示されている。

各単元のふりかえりに、「まんぞくのはしご」という、書き込んで数値化して学習の達成度をはかるという設定がある。

単元末の「もしも」では、「もしも過去や未来が見えるモニターがあったら」など、児童が楽しみながら発想を広げて想像し、身近な人々や社会、自然と主体的に関わる力を引き出す工夫がなされている。

#### 光村図書

各単元が「ホップ」「ステップ」「ジャンプ」の3段階で構成されている。児童の思いや思考の流れを大切にしながら、主体的・対話的で深い学びが達成できるようになっている。「ホップ」「ステップ」で試行錯誤する活動や体験活動をし、「ジャンプ」で学んだことをふりかえる。話し合いやゲームなど表現活動を繰り返しながら学びの質を高める。

QRコードが記載されており、道具の使い方など動画を見ることで、児童の興味関心を高めるようになっている。

「ひろがるせいかつじてん」では、「見つける」「くらべる」「たとえる」など学習活動や視点の持ち方の例が示されている。「あんぜんにきをつけよう」など、日常生活の中で身につけたほうがよいことも示されている。

#### 啓林館

「わくわく」「いきいき」「ぐんぐん」の3段階の紙面構成で、活動の流れがパターン化されて明確になっている。

紙面右下の「めぐりことば」では、「さいたはなはどうなるのかな」など、子どもの次の活動への思いや疑問、願いの例が示され、活動の連続性をサポートしている。

各単元末のふりかえりは、「できるかなできたかな？」とし、項目が常に2つ示され、単元の学習を通して気づいたこと、分かったことを主体的に振り返られるように工夫されている。

#### 日本文教出版

紙面の左下には、3つの柱に基づいた、学習のめあてが示されている。本のマークは知識・技能を、電球のマークは思考力・判断力・表現力を、ハートのマークは学びに向かう力・人間性を示している。

単元ごとに「ポケットずかん」というコーナーがあり、自分たちの住む町のことや季節の植物や生き物、遊び方など資料として活用できるようになっている。

下巻の裏表紙には、点字は盛り上げ印刷してあり、実際に触れることができるよう

に工夫されている。

委員長 質疑を始める。質疑はあるか。

委員 なし。

委員長 協議に入る。意見はないか。

委員 啓林館は、単元の構成が、「わくわく」で導入、「いきいき」で調べる、「ぐんぐん」で調べたことや分かったことを紹介する流れになっており、分かりやすい。各ページの色でも、どの段階かがわかる。また、紙面右下の「めくりことば」で次時への活動を促し、学習の連続性を意識している。

委員 学校図書は、写真やイラストが大きく、解説の文章が少ないため、児童の気づきを促す教科書となっている。例えば、“あれどうしたのかな？”というなげかけのみのページもあり、児童の思考も広がり、とても良い。

委員 取り扱っている写真も、バッタの食事場面やダンゴ虫の産卵など、児童の興味を引くようなものを記載している。P67、78「こんなものがつくれるよ」など、生活では季節の植物などでおもちゃを作る活動が重要であるが、おもちゃづくりが紹介されているページが4ページもある。

委員 東京書籍では、巻末の「ぼけっとずかん」が切り離して、野外活動での資料として持ち運べるのが使いやすい。

委員 光村図書は、各単元のふりかえりのシールがあり、それを巻末の方に貼り直してまとめることができるページがある。1年間の成長をまとめて振り返ることができる、充実感が生まれる。

委員 日本文教社は、育成すべき資質・能力の観点がページごとに示されていて分かりやすい。

委員 大日本は白黒の写真があり、色を想像させるなど、五感を刺激する工夫がされている。表紙も凹凸があり、触感を楽しむことができる。

委員 光村図書は、一つの風景のイラストで春夏秋冬を描いているものがあり、一年のつながりがある。1年間を振り返って、作品作りなどの参考になる。

委員 東京書籍の巻末の「べんりてちょう」では、交通のマナーや安全に関する記述もあり、生活に即してていねいに書いてあるのがよい。また、表記・表現の面で、植物の育ちが見てわかりやすいように、ページが変形してあり、重ねて見比べることができる。見やすい。

委員 啓林館も植物の成長を見比べられるようになっている。綿などを取り上げているのもおもしろい。

委員 光村は、下巻は特に春から始まり夏の野菜など、四季にそって単元が構成されていて児童の生活の流れと教科書の流れが合っている。

委員長 では、意見を集約して、◎は学校図書、東書と光村は○でよろしいか。

委員 よい。

委員長 続いて、音楽の担当の方、お願いします。

事務局 音楽について説明する。

#### 教育出版

歌唱教材は、日本や様々な国の音楽から、選曲されており、また、遊び歌が多く示され、楽しみながら主体的に学習に取り組める工夫がなされている。器楽合奏は、取り組みやすい難易度のアレンジがなされており、主体的な学びを促し、達成感が得られやすい内容になっている。

教科横断的な学習につながるように、英語や算数と関連した学習を行うことができるような歌唱教材が取り上げられている。

「学び合う音楽」では、仲間と表現の工夫を深められるよう、学習の手順や話し合うテーマが例示されており、対話的な学習を促すことができるようになっている。

WEB資料のある教材に「まなびリンク」のマークが記され、iPad等で簡単に閲覧できるようになっており、学習に広がりを持たせることができる。

各ページの構成は、左上に題材名、右上には「音楽のもと」、右端には「新出事項」といった掲載のパターンが統一されていて、児童にとって分かりやすく工夫されている。

#### 教育芸術社

「歌いっごう日本の歌」では、季節ごとの行事の歌など、児童に伝えたい伝統的な歌唱教材が多く使われている。

音楽づくりは、言葉や手拍子でリズムを作るなど、身近な素材でスムーズに授業が進められるよう、工夫されている。

我が国の文化を大切に育てる教材では、伝統芸能の保存会からのコメントを載せ、興味や関心を持って教材に触れられる配慮がなされている。

音程感覚の基礎として、音の高さの違いを、ハンドサインを用いたり、風船の高さによってイメージさせたりする例が示されている。

歌唱や鑑賞教材で、曲想について感じたこと、気づいたことを書くスペースが設けられており、児童がねらいを捉えやすくなるようになっている。

QRコードから、iPad等で、学習をサポートするコンテンツを読み取ることができ、ICTを活用した授業を行うことができるようになっている。

子どもたちの気付きや思考を促す手立てとして、キャラクターが吹き出しの中で、学習のめあてやアドバイス、ヒントを示しており、主体的に学習に取り組めるように

なっている。

委員長 質疑を始める。質疑はあるか。

委員 なし。

委員長 協議に入る。意見はないか。

委員 教育出版が良いと思う。私は音楽は得意ではないが、出来ない自分でも分かりやすい。これだったら使いたいと思う。教育芸術社はいろいろやってくれているが、かえって分かりにくい。取り組みやすいし達成感が得られやすいというのが、苦手な子や上手く弾けない子にとってもよい。音楽ができて楽しいな、と子どもたちが思えるという観点で見ればよいなと思った。

委員 教育出版の目次を見ただけでも、どういうところをメインに教えていけば良いのかというマークがついていて良いと思う。特に低学年は、担任が指導することが多いと思うので、重きを置く場所と、そこでのめあてが分かりやすいのが良い。

委員 教育出版で、それぞれのページの上に、たとえば5年の43ページに拍とフレーズと縦と横との関係、チェックリストが掲載されていて、これを見ると指導しやすいと感じる。

委員 教育出版には、それぞれの楽譜が載っているページの写真やイメージがきれいで、例えば「おぼろ月夜」などイメージが沸きにくいものを見開きでこういう感じなんだなというのが分かって良い。「われは海の子」「君が代」なども素敵なページになっている。モチベーションにつながって楽しい気持ちになれる。教育芸術社は、リズム遊びのページ、ボイスアンサンブル、ボイスパーカッションなど、メロディーじゃなくてリズムの方に視点を当てた取組が良い。音程が苦手でもリズムで楽しめる。

委員 2年生の教科書では、教育芸術社だと最初のところで2拍子3拍子を身体を使って学んで理解をさせようというのがある。教育出版は何拍子というのではなく、リズムの速さ強さを感じていこう、音楽は楽しい、という感じになっている。

委員 教育出版のほうが、見やすさがある。

委員 教育芸術社は、「歌いつごう日本の歌」で、歌唱教材の中で伝えていきたいというものを選んでる。音楽の大事なところである。特に日本語の歌詞の響きの豊かさを意識するように作られているように感じた。

委員 教育芸術社にも良い教材がいっぱいあると思う。鑑賞したものを演奏する



などがあり、表現と鑑賞を意識しているなど感じた。前回の改訂の時に共通事項として、音楽の要素というところで、教育出版は、音楽を表す色々な言葉が巻末にまとまっていたり、音楽の要素が意識できるようなものが教材別に載っている。教育芸術社はあまりそこがなく、前回の改訂では意識されていたのに今回はそれほどでもないという気がする。なので教育出版なのかなと思っている。

委員長　みなさんの意見から、教育出版のほうが◎で教育芸術社が○でよろしいでしょうか。

委員　よい。

委員長　それでは、図画工作の担当の方、お願いします。

事務局　図画工作について説明する。

開隆堂

学習の三つのめあてが児童に問いかける形で分かりやすく示され、さらに中心となるめあては強調されており、児童が目的を持って主体的に取り組めるように工夫されている。

多くの題材に、共同して活動したり、対話していたりする学びの姿が取り上げられており、児童を対話的な学びへと導いてくれるようになっている。

安全な用具の使い方が写真やイラストと共に説明されており、題材に即して児童が安心して活動を行うことができるようになっている。

巻末の「学びの資料」には、用具の使い方や作品の展示方法、鑑賞の仕方等が詳細に分かりやすく示されている。

プログラミング教育に関する事例やプログラミング的思考を培える題材が取り上げられている。

教科書に掲載されたQRコードを通して、製作の手順やポイント、用具の使い方をiPad等で簡単に動画で見ることができるようになっている。

教科横断的な学習の手立てとして、他教科との関連をもって学習が進められるページには「あわせて学ぼう」マークとともに教科名が示されている。

日本文教出版

資質・能力の三つの柱に基づいた学習のめあてとふりかえりが各題材に設定されている。

多くの題材で写真に吹き出しを用いて、児童が言語活動をしている様子や制作過程のヒントを表し、主体的・対話的な学びの一助になっている。

「気をつけようマーク」と「片付けようマーク」が題材ごとに示されており、児童が安全に活動を行うことができるようになっている。

巻末の「使ってみよう 材料と用具」には、安全で適切な用具の使い方や片付け方が示されている。

児童が持続可能な社会について考えられるよう、ESDの観点に立った題材や事例、SDGs、防災・安全、多文化共生等が取り上げられている。

題材ごとに、出来上がった作品が多数示されているので、児童が作る時のヒントになり、主体的な活動へ導いてくれるようになっている。

写真やイラストにおいて、児童が共に学び合う姿や幼児、高齢者、障がいのある人など多様な人々に関わる姿が掲載されており、児童が多様性を育む配慮がなされている。

委員長 協議に入る。意見はないか。

委員 工作について、開隆堂は左上に必要なものが書いてあり、日本文教出版は左下に書いてある。見やすさは開隆堂の方が見やすい。

委員 開隆堂は、右下のところに、他の教科との連携が書いてある。

委員 どちらもいいが、開隆堂のほう最後のふりかえりのところの文が「～かな。」という疑問文で書いていて日本文教出版の方が「～したよ。」と書いている。語りかけのほう子どもには分かりやすいと考える。

委員 SDG s は鎌倉市でもさらに発展していくものなので、子どもたちに意識させていくことが大事。作品を大事に持って帰るなど、作るだけではなくて、作った後の姿勢を載せているのは大事である。

委員 日本文教出版の題材に目新しさを感じる。両社にあっためあてのもち方で、日本文教出版のほう資質能力の3つの柱というのが気になっている。3つのめあてが良いところをついている。日本文教出版は日本文教出版の良さがあるが、やはり開隆堂が良い。

委員長 それでは、よろしいか。開隆堂が◎、日本文教出版が○ということで、意見をまとめたいと思う。

委員 よい。

委員長 それでは、家庭の担当の方、お願いします。

事務局 家庭について説明する。

東京書籍

「日本の伝統」コーナーでは、「日本の伝統的な食品」や「日本てぬぐい」、「もったいない精神」など、伝統と文化を尊重する態度を養える例をコラム的に強調して紹介されている。

8ページを割いて「持続可能な暮らしへ 物やお金の使い方」という「持続可能」ということを全面に出した単元を用意しており、SDG s 未来都市に選定されている鎌倉市の教育にふさわしい。

学習内容についてプロの視点から詳しく教えてくれる「プロに聞く！」の欄が10箇所設けられており、キャリア教育について意識されている。

## 開隆堂

和食の基本、みそしるの実の組み合わせの例など日本の文化に関連する部分に「伝統」のマークをつけ、日本の伝統と文化を意識できるようになっている。

SDG s に配慮した短い単元や簡単な記述が所々にあり、SDG s 未来都市に選定されている鎌倉市の教育での活用が期待される。

「生活の中のプログラミング」と題して、炊飯器や洗濯機などの家電製品の紹介を通して、家電製品のプログラミングが紹介されている。

デザイナーや司法書士など、様々な職業の人のインタビューが5箇所掲載されており、キャリア教育との関連で指導ができる。

委員長     それでは協議に入る。

委員        版が大きいのか、東書はすっきりして見やすく感じる。今までと同じで開隆堂は、子どもが慣れているとは思うが。

委員        開隆堂は、単元ごとに学習のめあてがあり分かりやすい。

委員        左ききの子どもにとっての使い方が、開隆堂1ページにまとめられているので、分かりやすい。東書は単元ごとに載っているもので、じっくり見られる。

委員        子どもにとっても難しく感じる玉結びの解説は、開隆堂が分かりやすい。ものによっては東書も見やすい。

委員        東京書籍は、SDG s に関しては丁寧扱っている。ページ数なども多い。

委員        東京書籍は、すっきりして見える。色合いが淡い。ユニバーサルデザインを使用し弱視の子への配慮がある。

委員        東京書籍の特徴として、資料集がよい。現代の課題として、消費者教育に配慮している。インターネットなど学ぶいい機会ではないか。

委員        単元名や見出しは、東京書籍の方が子ども寄りに作られている。針を使う部分で言うと、開隆堂は「始めようソーイング」だが、東書は「人針に心をこめて」となっている。気持ちが入っていてよいのではないか。

委員        開隆堂、まとめて左手と右手の使い方の写真が載っている。資料集的な使い方、自学自習がしやすいのではないか。

委員        それぞれの出版社のメリットデメリットは表裏一体である。東書ぐらい細かく書いてあると手順等がわかりやすいが、文字の多さに子どもが圧倒されないか。開隆堂は字が少ないような気がするが、どうなのだろうか。

委員 東京書籍は、全体的に絵や写真が新しい感じがする。

委員長 それでは、今の検討からすると、東京書籍◎、開隆堂○ということによろしいか。

委員 よい。

委員長 それでは、保健の担当の方、お願いする。

事務局 保健について説明する。

東京書籍

各項が、ステップ1 気づく・見つける、ステップ2 調べる・解決する、ステップ3 深める・伝える、ステップ4 まとめる・生かす、というステップ方式になっているので、問題解決の過程がわかりやすく、見通しを持って学習ができるようになっている。

各章の始めに、「つなげよう」として既習内容や家庭科や道徳などのどの単元と関連しているかが、視覚的にわかるように示されているところがある。

各項末の「資料」では、新型インフルエンザについてなどの今日的な健康課題を取り上げることや、インターネットのコンテンツの利用を促すなど、学びの意欲が高まるよう構成されている。

大日本図書

章の始めに「学習ゲーム」を掲載し、ゲームに登場する単元内容をキャラクターに演じさせることで、意欲的に取組ながら学習の課題に気づきスムーズに単元に導入できるようにしている。

5・6年の「はってん」では、オリンピック・パラリンピックと健康への取組の関連を取り上げ、社会全体で健康を考えていく大切さを意識できるよう工夫されている。

発達段階に配慮し、3・4年のみの学年のまとめや、4年のやってみようで、シールを使うことで意欲的に学習ができるようになっている。さらに、そこで使用するシールは教科書に閉じられており、紛失がないように配慮されている。

文教社

各学年の章末に、「みんなで宣言しよう」を設け、思考、判断、表現の力をつけるとともに、学んだことをこれからの生活や学習に自信をもって生かしていけるようになっている。

5・6年の病気の予防では、イメージマップが取り入れられ、児童の考えをスムーズに引き出し、考えを可視化することで対話的な活動に結びつけやすくなっている。

けがの防止の単元では、自助、共助、公助について、大きくカテゴリー分けされた資料があり、写真を用いてわかりやすく示されている。

光文書院

各章の扉ページには、児童が学習への関心をもちやすいように、学習へ導く問いかけが、親しみやすいイラストを用いた4コママンガで示されている。

「対話的な学び」では、視点の提示があったり、周りの友達の意見を書き込む欄が

作られたり、話し合い活動につなげられるようになっている。

「生かそう・伝えよう」では、学習したことをもとに、周りの友達へのアドバイスを考えたり、学習したことを伝えたりすることで主体的に学習できるようになっている。

#### 学研教育みらい

各学年の章末には、学習のまとめとして振り返りを記入する欄が設けられており、そのまとめには、学びを深め、生活に生かしたり発展的に考えたりできる工夫がある。

「科学の目」では、科学的な視点からの理解に結びつけられるように顕微鏡での拡大写真やレントゲン写真など「見えないものが見える化」した資料を掲載することで、児童の興味関心を高めながら学習に取り組むことができる工夫がある。

単元に関連する情報が、欄外やコラム的に多く記載されており、学習を深めやすくなっている。

委員長     それでは協議に入る。

委員        光文の扉ページの4コマ漫画はおもしろい。子どもが学習のめあてを把握しやすいのではないか。

委員        東書のステップ1、2、3というように、学習の道筋が示されているのでそれに則って学習を進めることができ、しっかりとした学習の定着ができるのではないか。

委員        保健の授業で難しいのは、子ども達が自分事に落ちていかないことである。東京書籍のように、気づく、見つけるなどで示されているように、子どもによくあるような環境でひきつけて導入していくステップ方式や、深める、伝えるというところで子ども達が考えて、みんなで話し合ったことを伝えていくというステップがあることで、自分の学習に落ちていくと思う。

また、大日本の学習ゲームという絵の中から探すことで学習の課題をつかむのも魅力的だと感じた。

委員        大日本は、単元が見開き1ページで解決しているのが良い。見つけたことを右下にまとめるようになっており、1ページにまとめられている。完結型なので、限られた時間の中で扱いやすいのかなと思う。

委員        文教は、資料的にかなり詳しく載っているところが多い。子どもが自分でこれを使って、自分で調べるなど発展的に使える。1時間の中で扱いきるのは実際の授業内では難しいかもしれない。

委員        東書が、メモ欄以外にも、「深める・伝える」などで、相手や自分にどんな言葉をかけるか、自分にどんな言葉をかけるかなど、問いかけで自分に落とし込んで書ける欄があるというのは良いのではないか。版は同じだが、文字が見やすい気がする。

委員 大日本が、漢字を配当学年より1年遅らせているのは、授業で扱いやすいと思う。2・3年の漢字で3・4年の教科書が作られているのは、子ども達にとって4月当初でも使いやすいと思う。

委員 光文は、大きな単元の頭の部分に必ず4コマ漫画があるのは学習の入り口としては良い。

委員 学研について、資料にもあるのだが、けがの防止という単元での交通事故では、色々な事故を想定している。コンパクトにまとめられていると感じる。また、自然災害が安全を守るための緊急の警報など細かいところまで掲載されている。今、非常に災害が危惧されている中、防災教育を行う上では単元が設けられているのはとても良いのではないかな。

委員 学研の資料はかなり細かい。がんの起こり方など、がん細胞のできる資料は大人でも興味を引く。細かい資料を子どもたちと一緒に考え理解できるのではないかな。使い方によっては先生たちが、授業を膨らませていけるのではないかな。

委員 学研は、時数が少なく、毎日継続して行うものではないが、見開きのページの中で、つかむ、考える、まとめるという形で構成されているので、1時間の学習の流れが見えやすく授業が進めやすいかなと思う。それでいて、もっと知りたい・調べたいというところで、学習を深めていける。

委員 学研のなかにある、がんとはどんな病気、神奈川県のがん教育との関連を考えると必要になってくるのかなと思う。右側のページにあるパソコンやタブレットと健康について書かれているが、その中で、インターネット依存という依存症についてが載っている。今、小学校でも依存症予防についての講演を行っているだろうが、中学校という発達段階へのつながりを考えると良いのではないかな。薬物関係の依存についてはよくあるが、インターネット依存は少ないので、学研の特徴だと感じる。

委員長 他に意見はないか。  
それでは、今の検討をまとめると、◎を学研、○を東書と大日本ということではどうか。

委員 よい。

委員長 これですべての種目について終了した。次に前回の協議をまとめ、報告書案を作成いただいている種目について協議を行っていく。  
まず、道徳について、いかがか。

委員 多面的・多角的の表記方法。発達の段階という言い回しについて確認する。

委員 自分ごと、挿し絵、形という表記方法について確認する。

委員 「引き出させる」を「引き出す」という文章表記に。3行文を2文に分ける方がよい。ユニバーサルデザイン。多岐にわたり資料を揃えているという部分は教材と言い換える。

委員長 「得やすくなっている」を「得やすく」、判型の表記を統一する。

委員長 以上でよいか。

委員 よい。

委員長 続いて、国語についてはいかがか。

委員 「持たせる」を「持つことができる」、「掻き立てる内容」を「引き出す内容」という文章表記にする。

委員 「感想を共有」を「感想を伝え合ったり・・・」という文章表記にする。

委員長 以上でよいか。

委員 よい。

委員長 続いて、書写についてはいかがか。

委員 毛筆や硬筆について、単元として扱われるものなのか確認する。

委員長 「日常生活など」の「など」は二重表記になってしまうので削除する。

委員 写真やイラストだけでなく、QRコードから動画で確認ができるということで、「視覚的に」を「より視覚的に」という文章表記にする。

委員長 以上でよいか。

委員 よい。

委員長 続いて、地図についてはいかがか。

委員 一文が長いので、分を分けた方がよい。また、統計のページで、多様なデータの中に帯グラフなどが含まれているような記述が必要である。

委員 「読み取りしやすい」を「読み取りやすい」という文章表記にする。

委員長 以上でよいか。

委員 よい。

委員長 現段階で出来上がっている報告書について、協議を終了する。この後の流れについて事務局より説明を願う。

事務局 本日、前段で協議した種目については、事務局で報告書の原案を作成し、委員長、副委員長と事務局で取りまとめていくという進め方でいかがか。

委員長 事務局より提案があったが、いかがか。

委員 よい。お願いします。

委員長 閉会の言葉  
事務局から連絡をお願いします。

事務局 協議等に使われた資料については事務局にて返却を願う。  
終了。



会議録署名

令和2年度(2020年度)使用教科用図書採択検討委員会

委員長 ( 蔵部 久仁子 )

会議録署名委員 ( 三好 晃秀 )

会議録署名委員 ( 大原 彩子 )